# Hello, GINZA SONY ISLAND

## どうやら銀座には雨の日にだけ現れる幻の島「銀座ソニーアイランド」が存在するらしい。

視界も悪いし傘を持ち歩くのも面倒。本プロジェクトは、そんな雨の日の憂鬱を楽しさに変えることを目指した。

水に濡れると発色するハイドロクロミックインクを使って、ソニーパークの地上部を海のように塗ることで、雨の日にはソニーパークの高台部分が海に浮いている島のように見える。

落書き用のスケッチエリアを用意し、ビジターはそこでハイドロクロミックインクを使って落書きを楽しむことができる。その落書きは雨の日になると再び現れ、島での生活を営む様子を見ることができる。

『どうやらその島を訪れた後は憂鬱だった雨の日がちょっと愛しく感じられるらしい。』
こんな噂が広まるような空間を作ることを目指した。

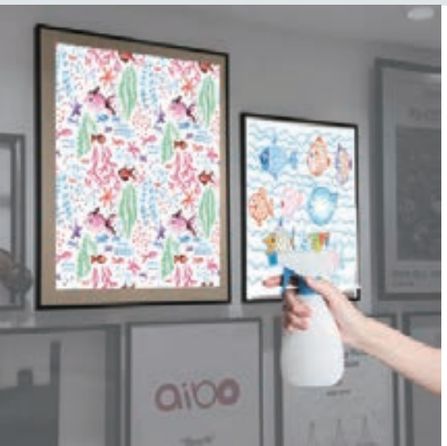
# Hello, GINZA SONY ISLAND

本プロジェクトではハイドロクロミックインクを使用する。このインクは濡れると発色し、乾くと元に戻るという特徴を持っている。このインクでソニーパーク地上部の床を塗り、雨の日に海が出現するような演出を試みる。

雨の日に銀座を訪れてみると、床の色が変わることで海が出現し、ソニーパークの地上部分が島のように見える。ビジターによって落書きされた絵も、雨に濡れることで再び姿を見せる。海とそこに暮らす生き物たちを描き、自然豊かな公園を島に見立てることで、既存の公園環境を生かした景観を生み出すことを目指した。

落書き用のスケッチエリアを設置する。ビジターはハイドロクロミックインクを使ってそのエリアで落書きを楽しむことができる。描いた絵は感想すると徐々に消える。市民が落書きに参加するという要素を Digital Drawing Wall から引用した。スケッチエリア以外の床の落書きは、プロジェクトの開始日に公募を行い、市民の手によって描くことを想定している。

雨の日は持っている傘にハイドロクロミックインクで自分だけの落書きをすることもできる。雨の日の銀座が自分の好きな落書きをした傘で溢れ、これまで無表情だった傘の群れが個性を持ち始め新たな景色を作ることを目的としている。



描かれた落書きたちは、これからのソニービルを見守っていくために地下部に掲載される。ビジターはそばに設置された霧吹きを使ってラクガキを濡らすことで、いつでも鑑賞できる。

## ソニービルの未来と共に

新しいビルの建設によって現在の地上部は屋内空間となるだろう。しかし、何かの拍子に床に水をこぼしてしまったときに落書きを発見し、かつて存在していた銀座ソニーアイランドを思い出すことができる。